

【優秀賞】

タイトル：長所を見つけませんか？

生徒氏名：N・S

人権のことなんて、ちゃんと考えたことなかった。

私は今、充実した日々を過ごせています。受験勉強とか習いごととか、中学生なりの大変なこともあるけど、とても楽しいです。こんな生活の中に、人権を考えるような出来事はありません。でも、今、そんな出来事がないのは、昔の経験から、私が少し成長できたからかも知れないと思うのです。

私は小学生の時、いじめをしていたことがありました。ちょっと気に入らないことがあれば、すぐ陰で悪口を言う。シカトする。そのときは、別に悪いことだと思っていませんでした。「みんなやってるでしょ？」そう思っていました。実際そこまでひどいいじめだと思っていなかったから、気にしていませんでした。

結局、少し親がからんだこともあったけど大事にならずに小学校を卒業しました。いじめについて、ちゃんと考えるようになったのは中学校に入学してからです。

中学校に入ってすぐ、いじめの現場を見ました。いじめている方も、いじめられている方も、知り合いのいない私に声をかけてくれた友達でした。

このことがきっかけで、私はいじめている方といじめられている方、両方の言い分、悩みを聞くことになりました。いじめている側の意見は何回も聞いているし、自分もやっていたことがあるので、共感できるところも確かにありました。でも、いじめられている側の悩みに耳を傾けたのは初めてだった。

—こんな気持ちだったんだ。こんなに悩んで、苦しんでたんだ。—

正直、驚きました。それと同時に、過去のあやまちに初めて気づき、後悔しました。きっと私がいじめていた子も悩んでたんだ。少し気に入らないことがあっただけの軽い気持ちで言っていたことも、その子にとってはすごく辛いものだったんだ。

そのことに気付いた私は、いじめをやめさせようと思いました。そのためにまず、自分はいじめに加担しない、ということはいじめている側に伝えました。そして、そういうことはやめた方がいいんじゃない？と言いました。嫌われる覚悟で。

その言葉のおかげか、時の流れのおかげかはわからないけど、結果的にそのいじめは終わりました。私も嫌われることなく、今でも両方友達です。

そんなことがあり、私は「人権」とまでは言わないけど、人として考えなきゃいけないことってあるよなあと思うようになりました。

いじめはその人の人権を奪うことになると思います。たしかにいじめられている人はかたよった考えや性格かもしれないけど、それを一方的にとらえて悪口などを言うのでは、お互い嫌な気持ちになるだけです。そんなことをするぐらいなら、もっとその人を多面的に見て、長所を見つけ合う努力をし、もし短所を見つけても、受け入れてあげれば、みんなが良い気持ちで過ごせると思います。

世界の人々がこのことに気付き、お互いの長所を見つけ、尊敬し合うことができれば、差別や戦争のない、平和で幸せな生活ができるようになると私は信じています。「人権」という言葉をいちいち使わなくていいような優しい、素敵な生活を、まず私の周りからつくっていきたいです。